



俳句

(2025)



目次

歳時記俳句	モ ー ロ ク 俳 句	た べ も の 俳 句
1 ゝ	5 ゝ	10 ゝ

7月是和風月名で「文月（ふみづき）」と呼ばれます。「文月」の由来には諸説あり、その中でも七夕に書物を風に晒す風習を意味する「文披月（ふみひろげづき）」からきた説、稲穂が実る頃という意味の「穂含月（ほふみづき）」が転じた説などがよく知られています。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

唇にピアスの光半夏生

梅雨永しパソコン頼り漢字多々
梅雨深しパソコンもまた湿りけり
長梅雨や誰かにコソしたき夜
パソコンも機嫌が悪し梅雨暑し

昼寝して再配達に頭下げ

昼寝してその都度歳をとりにけり
昼寝して細かきことは皆忘れ
あんパンのあの空洞で昼寝する

白昼夢妄想おわり昼寝醒

昼寝覚何も変わらず安堵かな

あるがまま混じりけのなし萼の花
伸び伸びて伸びたつ先に萼の花



泰山木節を守りて花二つ
夏薊みんなやさしき日本人
やや暗く棘で自衛の夏あざみ

さびしさを共有するか熱帯魚
熱帯魚ジェラシー多く傷つける

海岸の沖には未来はまなすや
烏瓜白いレースで主張する
一夜花華やぎ誘いからす瓜

茄子の花紺色の実にいかにして
茄子にも悪ナスビ有り棘と毒

睡蓮は咲くも咲かぬも自由なる
扇風機疲れ知らずに働いて
目を覚ます夜中なれども扇風機



大切にされて金魚は肥満体
東京で金魚の孤独一人様
露地裏に住めば都と金魚かな
蜃気楼金魚ばかりのミュージアム
金魚見て一日金魚また金魚

温暖化それがどうした金魚玉
何隠す白き花咲く鬼灯は

鬼やんま顔がすべてか差別なり
鬼やんま自己主張を貫いて

風鈴とパンツとパンティ吊されて
「江戸風鈴」つるせば涼しそこにあり

川蜻蛉ひらりふわふわ川風に
蓮の花古代平安現代へ
喧噪を嫌いひっそり蓮の花



ゴキブリと一蓮托生あの世まで
幽霊がかくれんぼする冷蔵庫
冷蔵庫扉のメモに参観日

手入れせぬ庭夏草の闇となる
夏草や吾もいずれに黄泉の国

かき氷昔はもつと冷たくて
かき氷赤と黄だけの昭和かな

炎熱に初雪葛立ち向かう
プールサイド赤きマニキュア指を差す

熱帯夜あの世の旅の支度する
いま夏の午前三時やブログ書く
晩夏とはいえど真夏日永遠か
七月の足裏いまだ干からびて
七月や秩父連山雲怒濤



モーロク俳句

七月は爆発寸前モーロクし
モーロクし生と死隣風知草

モーロクが終わるときには夕顔が
夕顔が咲いてモーロク闇の中

今日は散る蓮の疲れやモーロクす
梅雨明けはだらだら遠しモーロクす

モーロクししづかなるとき天道虫
モーロクしトマトはトマトテロリスト

モーロクしバナナさえども噛みごたえ
ピーマンの話をすればモーロクす
ピーマンをまるごと煮ればモーロクす



モーロクし歴史忘れて古代蓮
モーロクしもしもの話青山椒

革命を起こせモーロク青林檎
モーロクしされど革命青林檎

モーロクす水出し麦茶つくりけり
モーロクし冷えた麦茶が齒にしみる

夏蝶は乱舞最後にモーロクする
夏の蝶あまたの傷にモーロクす
モーロクしひとり遊びの夏の蝶

蝉時雨モーロク脳はがらんどろ
モーロクし年じゅう耳で蝉が鳴く

向日葵の裏面愛すモーロクし



モーロクし目覚め昼顔しおれけり

モーロクしたましいぬけでて昼寝する
モーロクし昼寝うたた寝蚊遣り香

モーロクし土用の鰻欲望す

モーロクしビールビールと念仏を
モーロクすされどビールが鳴っている
モーロクしされど余生のビールかな
モーロクし不条理一気ビールかな

棒アイスなめてモーロクあずきバー
午後一時モーロクすれどあずきバー
モーロクし単純がいいあずきバー

モーロクし悟りは無用冷し酒
モーロクし死ぬがゴールか冷し酒



モーロクし一言多く凌霄花
凌霄やモーロク男憎めずに
モーロクし少し疎まし凌霄花
凌霄花命散り敷きモーロクす

モーロクしいちごミルクのかき氷
モーロクし塩飴一つサングラス

モーロクし昼夜逆転かぶと虫
モーロクし思ひ出過ぎて兜虫

モーロクし金魚に話す何話す
モーロクし死して自由に黒揚羽

空蟬を見つけて夢をモーロクし
モーロクし空蟬ごとく軽くなり
モーロクし空蟬足から死んでゆく



空蟬を拾ふモーロク道連れに

モーロクしたましひ揺れて手花火を
この夏をいかに超えるかモーロクし
モーロクしすでに無力や夏落葉
モーロクしひとり紫蘇揉み寂しけれ
朝からの夏の日差にモーロクす



たべもの俳句

天日干しきゅうりパリパリ漬物に
すりおろしきゅうり豚しゃぶサラダかな
しやりしやりのきゅうり酢のものかに風味

茹で茄子をきんきん冷やし刺身風
揚げ焼きで簡単ナスの煮浸しを
レンチンのなすとささみの梅そうめん

茄子焼いて生姜たっぷり酒を酌む
焼き茄子にチーズ極たれたっぷりと
蒸しなすにんにくみそだれとろとろり

たっぷりのピーマン豚バラ炒め物
ピーマンをもみ海苔あえに磯の香を



道の駅ミヨウガたつぷり買い求め

青じそのうま塩漬けのそそる味
青じそのうま塩漬けで暑氣払い
青じそのピリ辛漬けで食欲を

シンブルにタコの和風カルパッチョ
味噌汁のパワーを味方夏の朝
夏野菜具だくさんにお味噌汁

サイダーの泡弾けたり懐古主義
コーヒーズリーつるんと涼しデザートに

養生ごはん夏の豚汁ミニトマト
豚汁も夏バージョンにおにぎりも

酷暑日は火気厳禁で海鮮井
鎌倉でクラフトビール散歩して



冷奴潰してしまふ田舎者
ピリ辛のホットドッグで夏ランチ

ヨーグルトソーダで割ればすっきりと
ヨーグルトスカッシュのどごし楽しソーダ割

暑い日にラーメンサラダ札幌風

昨日のライスカレーや戻梅雨
豚肉と野菜でパパッと夏カレー

青山椒たっぷり効かせ牛しぐれ
ラムチョップ岩塩かけて晩夏光

七月のリゾット焦げてそれもよし
がつつりと鶏もも焼き肉ビールかな
梅雨明けのピリ辛チキングリル焼き



激辛を食べる美人の顔の汗
豚バラで夏に食べたい豚キムチ

スパイシージャークチキンは夏の海
ジャークチキンジャマイカの風吹きにけり



